

第13回

大府センター認知症フォーラム

認知症カフェの 意義と現状

日時

平成30年 **3月14日** (水)
開場 12:30 開演 13:00

場所

ウインクあいち (愛知県産業労働センター)
大ホール(2F)

「認知症ケア専門士」単位認定講座 (3単位)

後援

東海北陸厚生局、愛知県、名古屋市、大府市、東海市、東浦町、岐阜県、三重県、国立長寿医療研究センター、
長寿科学振興財団、日本認知症ケア学会、全国認知症介護指導者ネットワーク、認知症介護指導者大府ネットワーク、
日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワーク、中日新聞社、毎日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、東海テレビ放送、
テレビ愛知、CBCテレビ、メ〜テレ、中京テレビ放送(株)



社会福祉法人 仁至会 認知症介護研究・研修大府センター

第13回 大府センター 認知症フォーラム

プログラム

13:00 ~ 13:10

開会挨拶

祖父江 逸郎 (社会福祉法人 仁至会 理事長)

講演 〈座長〉加知 輝彦 (認知症介護研究・研修大府センター 副センター長)

13:10 ~ 13:55

講演 1

認知症カフェの本質

～認知症カフェを地域の財産に～

矢吹 知之 (認知症介護研究・研修仙台センター 主任研修研究員)

13:55 ~ 14:40

講演 2

セカンドステージを迎えた認知症カフェの可能性

武地 一 (藤田保健衛生大学医学部 認知症・高齢診療科 教授)

14:40 ~ 14:55

休憩

実践報告 〈座長〉小長谷 陽子 (認知症介護研究・研修大府センター 研究部長)

14:55 ~ 15:20

報告 1

オレンジカフェよかところ

～認知症高齢者の見守り拠点としての役割～

谷 祐樹 (長崎市琴海地域包括支援センター 管理者)

15:20 ~ 15:45

報告 2

カフェくちなし

～地域とのつながりでできること～

齊藤 千晶 (認知症介護研究・研修大府センター 研究員)

15:45 ~ 16:15

ディスカッション 〈座長〉小長谷 陽子 (認知症介護研究・研修大府センター 研究部長)

矢吹 知之 / 武地 一 / 谷 祐樹 / 齊藤 千晶

16:15 ~ 16:20

閉会挨拶

柳 務 (認知症介護研究・研修大府センター センター長)

講演 1 13:10 ~ 13:55

認知症カフェの本質

～認知症カフェを地域の財産に～

矢吹 知之

認知症介護研究・研修仙台センター 主任研修研究員

プロフィール

矢吹 知之 (やぶき ともゆき)

長野県安曇野市生まれ

●経歴

東北福祉大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修了

青森大学社会学部社会福祉学科 専任講師

東北福祉大学総合福祉学部 専任講師 (現職) 2001年～

認知症介護研究・研修仙台センター 主任研修研究員 (現職) 2001年～

●研究分野

社会学 社会福祉学 認知症介護 (主に家族支援, 在宅の高齢者虐待防止等)

●最近の著書 (主なもの)

『高齢者デイサービス・デイケア Q & A』中央法規 2007

『介護職員基礎研修テキスト第4巻認知症の理解と対応』第一法規 2007

『介護福祉士養成テキスト「発達と老化の理解」』ミネルヴァ書房 2010

『高齢者虐待の予兆察知』(共著) ワールドプランニング 2011

『改訂: 認知症の理解と家族支援方法』(共著) ワールドプランニング 2012

『家族が高齢者虐待をしてしまうとき』(共著) ワールドプランニング 2012

『知っておきたい認知症ケア最前線-理論と実践-』(共著) ばーそん書房 2014

『介護福祉辞典』(分担執筆) ミネルヴァ書房 2014

『認知症の人の家族支援-介護者支援に携わる人へ-』(編著) ワールドプランニング 2015

『認知症カフェ読本~知りたいことがわかる Q & A と実践事例~』中央法規出版 2016

月刊 ふれあいけあ 『認知症介護相談室』(隔月連載) 2011～

●その他

2014年から、オランダのアルツハイマー・カフェ創始者ベレ・ミーセン氏に師事。2015年11月より東北福祉大学ステーションキャンパス、ステーションカフェでオランダ式認知症カフェ『土曜の音楽カフェ』を企画運営している。また、同じ会場にて当事者による相談窓口「おれんじドア」実行委員のひとりとして参加している。社会福祉士。

はじめに

推進される地域包括ケア

追い詰められる在宅介護と家族

- 05年から8年間 鉄道事故死 115人
 - 13年交通事故死者 全体の51%(2,264人)
 - 16年行方不明者 1万5千人(471人遺体で発見)
 - 15年の高齢者虐待相談通報件数 2万件超
 - 16年介護を理由にした自殺 251人
- 2006年の介護離職者 (総務省；就業構造基礎調査)

【合計】144,800人 ●男性：25,600 ●女性：119,2

※50代が最も多い

認知症の人、介護を支える地域づくりは本当にこれで良いのか？

2

第13回認知症介護研究・研修大府センター 認知症フォーラム

認知症カフェの本質

認知症カフェを地域の財産に

はじめに～地域ケアをめぐる問題～

1. 認知症カフェの本質とその哲学
2. 新たな当事者性に向けて

まとめ

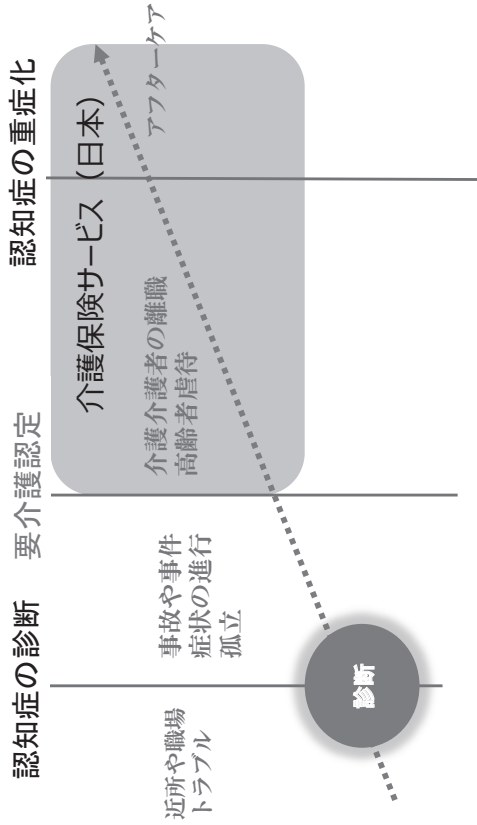
矢吹知之

認知症介護研究・研修仙台センター
東北福祉大学

1

認知症カフェに対する関心

初期の家族・本人へのアプローチの不足



3

新オレンジプラン認知症カフェの位置づけ

4. 認知症の人の介護者への支援 (新オレンジプラン)

【基本的考え方】

認知症の人の介護者への支援を行うことが認知症の人の生活の質の改善にも繋がるとの観点に立って、特に在宅においては認知症の人のもともと身近な伴走者である家族など、介護者の精神的身体的負担を軽減する観点からの支援や、介護者の生活と介護の両立を支援する取組を推進する。

(認知症の人の介護者の負担軽減)

- 認知症の人の介護者の負担を軽減するため、認知症初期集中支援チーム等による早期診断・早期対応を行うほか、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進する。

2020年までにすべての市町村に認知症カフェの設置を目指す(H29, 7月5日発表) 4

厚生労働省の紹介したカフェの事例

- 頻度：1～2回/月程度の頻度で開催
- 場所：通所介護施設や公民館の空き時間を活用
- 活動内容：特別なプログラムは用意されていなく、利用者が主体的に活動
- 効果
 - ・認知症の人 → 自ら活動し、楽しめる場所
 - ・家族 → わかり合える人と出会う場所
 - ・専門職 → 人としてふれあえる場所
 - ・地域住民 → つながりの再構築の

2012年約30カ所 → 2014年約660カ所

2015年末 約2300カ所

2016年末

約4267カ所

結果

5

① 認知症カフェの本質とその哲学

..... 隔離・保護から地域、そしてひとりの住民へ

- 1997年 オランダで始まる (ライデン大学ベレミーセン氏)
本人と家族の葛藤を解消し、地域全体を変えていくための場所として構造的、計画的に国家戦略において実践が始まる (240カ所+ティーハウス5カ所)
- 2000年 イギリス (アーンボロー州ジエマジョーンズ氏)
 - イングランド 認知症の人と家族の居場所 (78カ所)
 - スコットランド 認知症の人の居場所と家族のピアサポート (55カ所)
- 2009年 イギリス認知症国家戦略として位置付ける
- 2012年 日本にてモデル事業で20カ所程度で実施
- 2014年 オレンジプランで初めて明記された
- 2015年 新オレンジプラン策定 (2018年までに全自治体設置を目標)
- 2016年 老人保健事業にて全国及び諸外国調査 (自治体と各カフェ)

7

どこに行っても違うじゃないか？！
認知症カフェとはいったい何なんだろうか？

- 目的
認知症カフェの意義、そして運営実態
認知症の早期支援と認知症カフェの人材育成
- 期間
 - 2015年4月20日～5月15日まで
 - 2016年4月18日～5月10日まで
 - 2016年8月10日～17日まで
 - 2017年4月21日～5月9日まで



6

認知症カフェの「守・破・離」 アルツハイマーカフェの哲学

認知症のトラウマ、ドラマそして悲劇への対応

- 単なる社交目的の集まりではなく、介護専門職、認知症の人とその家族や友人がいる、敷居が低く理解のある環境の中で提供される、複合的なレベルの教育と支援の組み合わせられた構造である。
- 否定したい気持ちや乗り越え、それを受容し、様々な感情や長期に渡る病氣と共に歩む生き方を学び、その苦しみをオープンにする場となることを目指している。



アルツハイマーカフェは、患者/認知症の人とその家族・友人が孤立感を打ち破り、病氣について話すことのタブーをなくし、参加によって認知症の人と家族を解放する手助けとなる

Care-giving in Dementia (Bere Miesen) 2006

8

私たちが知らなかったこと……

アルツハイマーカフェの始まり

きっかけ1

認知症の人がなぜ介護者に依存し、過去に依存するのかを研究していた。それを特別講義で1年間開催した。認知症の人の語りは大きな反響だった。継続して開催するよう要請したが、しかし、それが大学に認められず、1995年ライデン大学で月1回夜に認知症のオープンな授業を開催した

きっかけ2

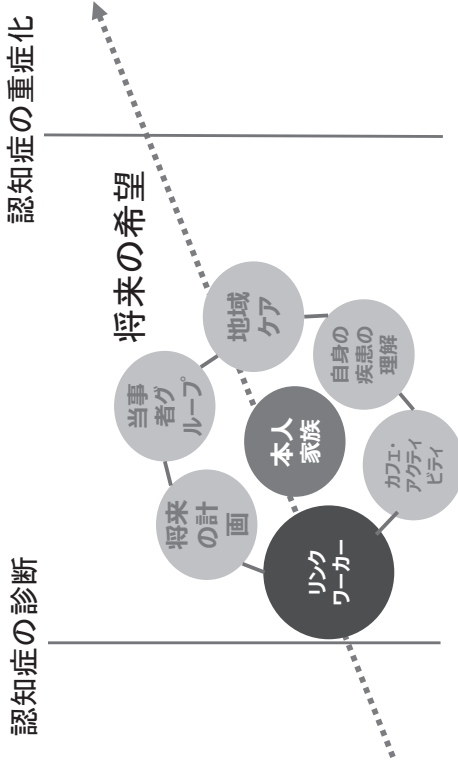
ベレミーセンが1994年に参加したヨーロッパ高齢者医療学会（イギリス）での経験「カフェ'84」の存在

ヘディ・フリード（1924年ルーマニア生まれ）

「友人と共有できるなら、悲劇は深く鋭いものではない。」

戦争体験者 シヤラ・モフ、メリデール 2000

スコットランドの認知症カフェの位置づけ



5つのアプローチ → → → 8つのアプローチ

発祥の国オランダと先進国イギリスの実際

オランダ

- ① 認知症についての医学的情報や社会心理学的情報を提供、抱えている問題についてオープンに話すことの重要性を伝えること
- ② 認知症の人や家族が抱えている問題について地域社会が再認識し受容すること
- ③ 認知症の人とその家族に対する社会的孤立の回避

イギリス

- ① 認知症の人や家族介護者が孤立せず社会との繋がる
- ② 認知症の人や家族介護者相互支援（ピアサポート）が行われること
- ③ 認知症や介護に関する情報提供がなされること
- ④ 専門家とつながり早期支援に結び付くこと
- ⑤ リラックスすること

イギリスの標準的なモデル



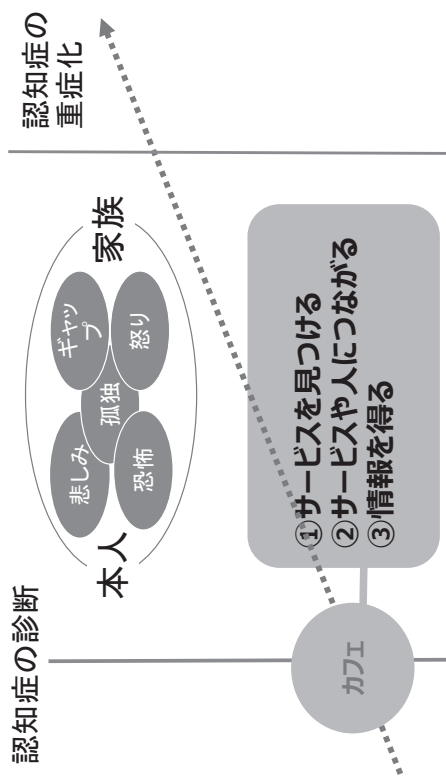
時間	内容	時間	内容
1部 11:00	オープン カフェタイム	1部 14:00	オープン
2部 11:45	本人：アクティビティ 家族：ピアカウンセリング	1部 14:00	カフェタイム
3部 12:45	ランチ	2部 15:00	アクティビティ
4部 13:45	自由に解散	4部 16:00	終了
14:00	終了		

オランダの標準的なモデル



時間	内容
1部 19:00	オープン カフェタイム ♪♪
2部 19:30	ミニ講話
3部 20:00	カフェタイム ♪♪
4部 20:30	Q&A
5部 21:00	自由に解散 (カフェタイム) ♪
21:30	終了

オランダの認知症カフェの位置づけ



情報コーナー

土曜の音楽カフェ♪

共同体で運営するオランダスタイル

仙台市青葉区で開催
毎月 第1土曜日
 時間 13:30～15:30頃
 会場 東北福祉大学のカフェを利用
 毎回 70人～90人参加
 費用 任意の協力金
 内容 第1部 カフェタイムと音楽
 第2部 ミニ講話
 第3部 カフェタイムと音楽
 第4部 Q&A

いつでも遊びに
来てください♪

「土曜の音楽カフェ♪」の概要



- 【目的】
- 認知症のことを学ぶ
 - 介護者になっても安心して繋がれる場所
 - 介護が必要になっても参加できる場所
- 【時間】
- 13:30～カフェタイム
 - 14:00～ミニ講話
 - 14:30～カフェタイム
 - 14:50～Q&A
 - 15:15頃 おわり

役割分担

- ミニ講話と広報：矢吹、包括、地域
- 会場内での相談：専門職と包括
- 音楽選定とカフェコーナー：地域住民



コンセプト

- ゆるやかに始まり、終わりはぴったりに終わります。
- 遅刻大歓迎、途中退室大歓迎
- 申し込みはいりません
- 無料です（協力金で運営）
- 飲み物は飲み放題です（淹れたてコーヒー、紅茶、日本茶）
- お菓子は、オランダ、イギリスのお菓子を
- メンバーの負担は最小限に
- 振り返りと打合せは2週間後

地域の財産となることを期待しています。

17

“これまでの集まり”と“これまでにはない集まり”

認知症の人と家族の会、ケアラースカフェ 家族

セルフヘルプグループ(SHG)

ふれあい・いきいきサロン 地域住民

社会福祉協議会(地区社協)が実施。(全国で5万件を超える:2015年)
居場所、孤立予防、健康づくり、役割の創出、地域づくり等
社会福祉協議会から運営補助金等あり
月一回が多く、平日午前中の実施割合が高い

コミュニティカフェ 地域住民

院側転としてだけでなく、市民の出会いと交流の場、情報発信の拠点
地域コミュニティ活性化の活動拠点

デイサービス 認知症の人

要介護または要支援
高齢者が介護施設に日帰りで通い、食事や入浴など日常的な生活の支援や生活機能訓練、口腔機能訓練が受けられる介護保険サービス

19

2. 新たな当事者性に向けて

～これまででない集まりを、ゆるやかに、しなやかに～

ここまでの整理
(日本)

在宅の認知症ケアを担う上で地域の理解は欠かすことができないが未だ十分とは言えない。認知症カフェの位置づけがよくわからない。

(カフェの哲学:オランダの哲学から学ぶ)

単なる集まりではなく、目的を持った集まりであり専門職と地域ボランティアによりそれが支えられ計画的、構造的に展開される

(カフェの果たしてきた役割と果たすべき役割)
地域の変革、初期認知症と家族の調整、教育

認知症カフェはこれまでにない集まりである

18

なぜ、オープンなのか？
これまでの集まりとの違い

閉ざされた場所で行われる、閉ざされた集まり

開かれた場所で行われる、閉ざされた集まり

閉ざされた場所で行われる、開かれた集まり

開かれた場所で行われる、開かれた集まり

地域の人が入る理由は何か

20

20

なぜ、計画的で構造的か

- 役割の過負担を防ぐため
- 過剰な負担は継続を危うくする

認知症の人への役割の要求、地域住民への役割の要求には運営の中心となる専門職等がきめ細やかな配慮が必要
より多くの地域内の社会的接触は訪問者間、運営者、ボランティア間の新たな衝突の可能性を秘めていま

21

21

認知症カフェ：新たな「当事者性」

これまででない形でのピアサポート機能を基盤にした支援

新たな「当事者性」：かかわる人すべてが同じ立場

経験や専門を権威化せずすべての人が水平な関係でいられる場

認知症カフェでは、何を支援するか

①感情(情緒的)のサポート

肯定的な感情になる

②情報(手段・道具的)のサポート

ほしい情報が得られ、助言が受けられる

(Denis2003, Solomn2004)

- 体験的知識論(Borkman1976)
- 教え込み型学習→浸み込み型学習(渡部2000)

23

“これまでの集まり”と“これまでにない集まり” ピアサポート機能の好循環の視点 (これを心理的な敷居と呼びたい)

①経験の権威化「私にしかかわからない！」

経験したことがすべてになり苦勞比べになるために自己嫌悪に陥ることや共感してもらえないと感じ、対立を生むことも。当事者ではない人を排除し閉鎖的な集まりに

②経験の多様化「私は違います！」

経済的、症状、年齢、続柄によってあまりにも大きな違いがあり共感できず、参加意欲の軽減や孤立化を生む

③専門職の権威化「綺麗ごとばかり私にとっては問題行動です！」

一般化された助言になり、家族が思いを吐露する機会を逸し、介護者の精神的疲弊につながる。また、規範の押しつけが介護者にさらなる苦しみを生む。

22

認知症カフェは誰を支援するのか？

どこを指すか？これまでの支援

家族会は家族を支援する

サロンは地域の高齢者を支援する


デイサービスは利用者の生活を支援する



これまで埋めきれなかった隙間(生きづらさ)を埋める支援
すべての人が当事者となるための支援
ピアサポート機能を持つ新たな形の支援の場

認知症カフェのポリシー

24

<div data-bbox="140 197 255 1061" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>“認知症カフェ”をめぐるいくつかの誤解 なぜこの様な誤解が生まれたのか？</p> </div> <p>誤解1 “認知症”という名前を入れたくない。</p> <p>誤解2 認知症の人が来ないのですが？</p> <p>誤解3 参加者が希望するからカフェの時間にレクリエーションをしよう！</p> <p>誤解4 サロンと一緒にではないのですか？</p> <p>誤解5 カフェを我が法人のウリにしよう！</p> <p>誤解6 常設されなければ意味がないのでは？</p>	<div data-bbox="842 215 935 1048" style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <h2 style="margin: 0;">認知症カフェのタイプ</h2> </div> <p>①情報提供や学びを主たる目的としたタイプ 例：カフェスタイルでのミニ講話が用意されていたり、専門職等からの情報提供がなされていたりする</p> <p>②特にプログラムは用意されていない居場所を主たる目的としたタイプ 例：特にプログラムなどはなく、場合によっては自由な時間枠の中で開催され、その中で専門職による相談なども行われている</p> <p>③家族と本人のピアサポートを主たる目的としたタイプ 例：地域住民はあまり参加せずリラックスした雰囲気当事者同士や家族介護者同士の話し合いや相談などが行われている</p>
<p style="text-align: center;">25</p> <h2 style="text-align: center;">認知症の人が集まらない これは課題であり、課題ではない</h2>	<div data-bbox="807 1182 906 1258" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="817 1258 896 2007" style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <h2 style="margin: 0;">認知症カフェの共通概念</h2> </div> <p>○認知症カフェは、認知症の人と介護者を第一に、地域住民、専門職も、住みやすい地域社会づくりに貢献できる場所であること。</p> <p>○認知症カフェは、多様な人々の対話と会話を基盤としており、地域として地域住民とのゆるやかな調和と協働により成立するものである。</p> <p>そのためには、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人が安心して参加できるよう合理的な配慮（※1）がなされること。 ・内容については特に認知症の一次予防（※2）が主目的ではないなどの配慮がなされていること。 ・アクティビティを取り入れる際は対話と会話を促すための手段であり、それ自体が目的ではないことを意識すること。 <p>等が必要であり、静かに休める場所なども準備されることが望ましい。</p>

まとめ

認知症カフェのポリシーを持ち、新たな可能性を

これまでになく集まりとしての“認知症カフェ”は

“敷居の低い”集まりであること

心理的なハードルを下げる

物理的なハードルを下げる(地域性も十分要考慮)

認知症の有無や、介護者、専門職のすべてが当事者であり支えられることを(学び、交流、時間)目指す。



認知症カフェモデレーター養成研修 の実施



認知症カフェ・モデレーターの役割

認知症カフェの目的を意識しその目的達成に導く役割を担う

認知症カフェの目的を理解し環境を整え人材を育成する役割を担う

認知症カフェの中核的な役割を担い、継続や周知への働きかけの役割を担う

認知症カフェに参加するすべての「当事者」への働きかけを行う

Summary Training Moderator Alzheimer Café (Dr. Bère Miesen) より

2017年11月1日に仙台市内限定で開催
2018年度は、公開し開催する予定です。

※現在テキスト作成中

検索 DCネット 仙台センター研究成果

セカンドステージを迎えた 認知症カフェの可能性

武地 一

藤田保健衛生大学医学部 認知症・高齢診療科 教授

プロフィール

武地 一 (たけち はじめ)

●略歴

昭和 61 年 3 月 京都大学医学部医学科卒業
昭和 61 年 6 月 京都大学医学部附属病院 (内科研修医)
昭和 62 年 6 月 福井赤十字病院内科医員
平成 元 年 4 月 京都大学大学院医学研究科博士課程 (加齢医学)
平成 5 年 4 月 新技術事業団研究員 (大阪バイオサイエンス研究所)
平成 8 年 4 月 ドイツ・ザール大学生理学研究所博士研究員
平成 11 年 4 月 京都大学医学部附属病院老年科 助手 (助教)
平成 22 年 7 月 京都大学大学院医学研究科加齢医学 講師
平成 26 年 4 月 京都大学大学院医学研究科臨床神経学 講師
平成 28 年 4 月 現職

●所属学会、役職、資格等：

日本老年医学会 代議員・専門医・指導医、日本認知症学会 代議員・専門医・指導医
日本老年精神医学会 専門医・指導医、日本内科学会 総合内科専門医
日本認知症ケア学会、日本神経科学学会、日本神経学会 会員、認知症サポート医

●主たる活動・テーマ

認知症の早期診断・病態解明、早期からのケア介入、家族支援、
高齢者総合的機能評価、地域包括ケアに向けた取り組み

●受賞

平成 28 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞 (奨励賞)

●著書

「認知症カフェハンドブック」(2015 年)、「ようこそ、認知症カフェへ」(2017 年)

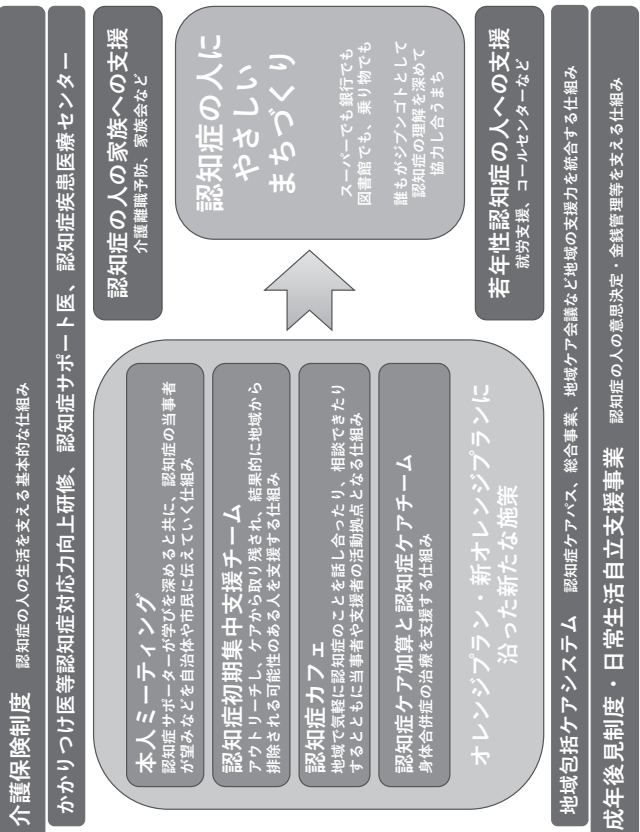
認知症カフェの意義と現状

セカンドステージを迎えた
認知症カフェの可能性



藤田保健衛生大学医学部
認知症・高齢診療科 武地 一

1



武地 一 日本認知症学会誌 in press 3

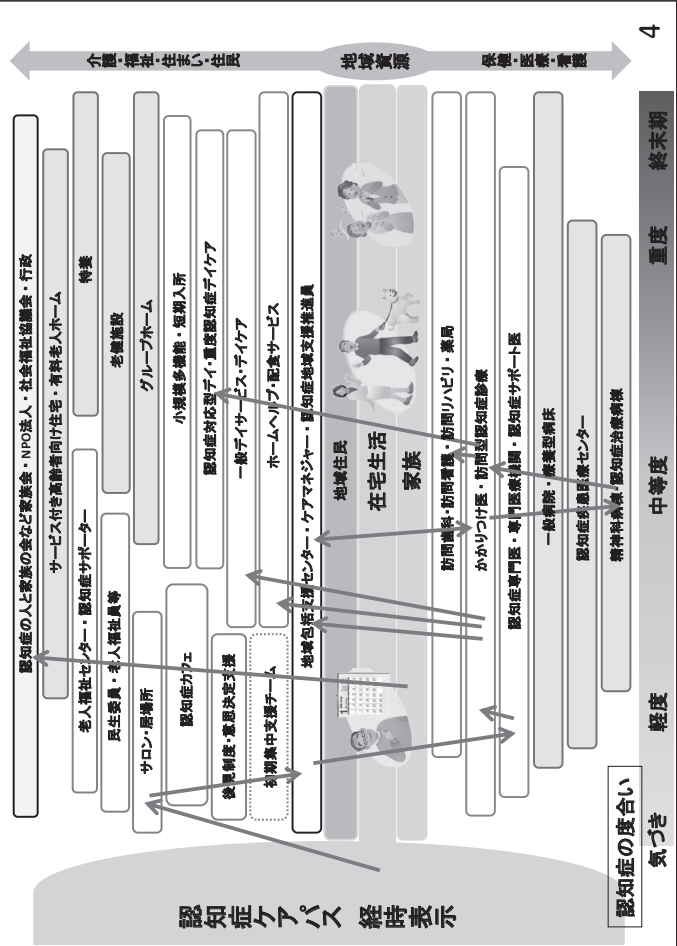


認知症のパーソンセンタードケア
新しいケアの文化へ
Dementia reconsidered the person comes first
トム・キョウトワット著 高橋誠一訳

時間刻みや分刻みで、生活の細かいところまで観察すれば、認知症の人を傷つけるようになる多くの行為を確認できる。
認知症に関わってほとんどずっと、わたしは人格を奪うこれらの傾向にはつきりと気づいた。わたしがこれらのエピソードにつけた名前は、「悪性の社会心理」であった。

これまで、認知症ケアの心理的課題が真剣に取り組まれることなく、介護者に必要なのは普通のやさしさや常識であると見なされ、矮小化されてきたことは驚くにあたらない。(中略) 家族介護者にしても、多くの仕事を一人でこなし、現状ではうまくやることがなど、実際上不可能な仕事を引き受けてきた。しかし、そのような仕事ができるように人間は「造られて」いないのである。

2



4

私にとっての1号店 オレンジカフェエコモンズ (オアシス型?)

5

オレンジカフェスタッフの実際の動き と役割分担

- 本人 対 スタッフ
 - 家族 対 スタッフ
 - 本人同士の結びつきへのサポート
 - 家族同士の結びつきへのサポート
 - 本人・家族の結びつきへのサポート
-
- キッチン、物品補給、保守、記録、経理
 - ボランティアスタッフのシフト作成・連絡
 - 利用者との連絡・利用調整
 - 地域との調整、広報、地域資源開拓

7

オレンジカフェエコモンズのスタッフの構成 認知症カフェスタッフの一例として

認知症ケアにおけるフレンドシップを意識しボランティアを中心に募集

学生ボランティア(登録6名)

高齢者福祉を学ぶ学生の中から、認知症ケア、少子高齢化社会の経済、ソーシャルビジネスに興味を持つ者

参加者には更に研修

市民ボランティア(登録14名)

認知症サポーターアドバンス講座受講者の中で、オレンジカフェボランティアに興味を持つ者

専門職などのボランティア(数名)

専門職や学区社協関係者の中で、オレンジカフェに興味を持つ者

*人数は開設当初の数字。

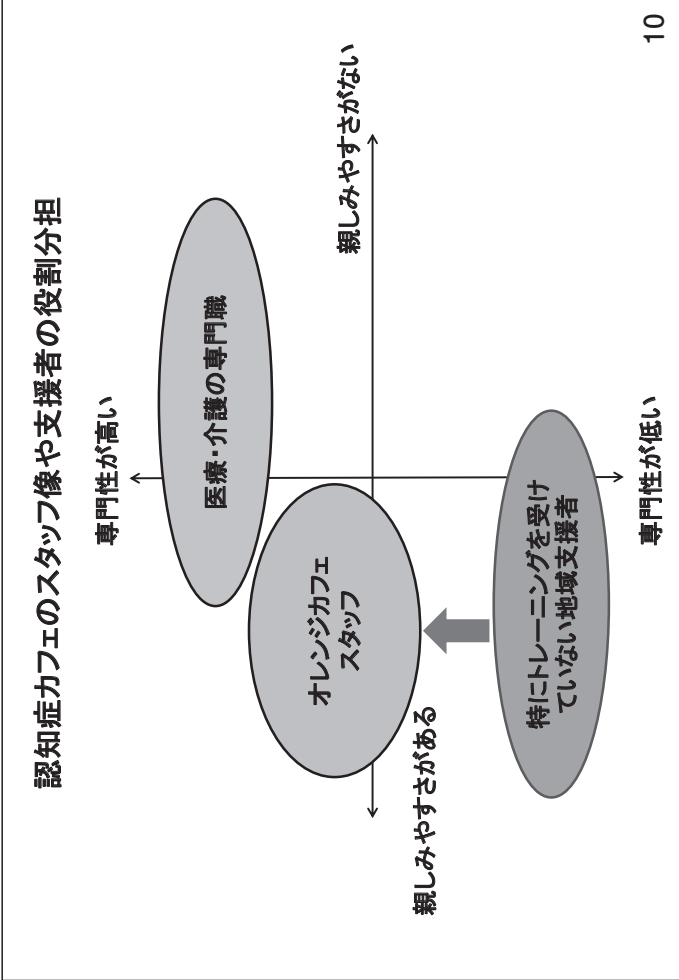
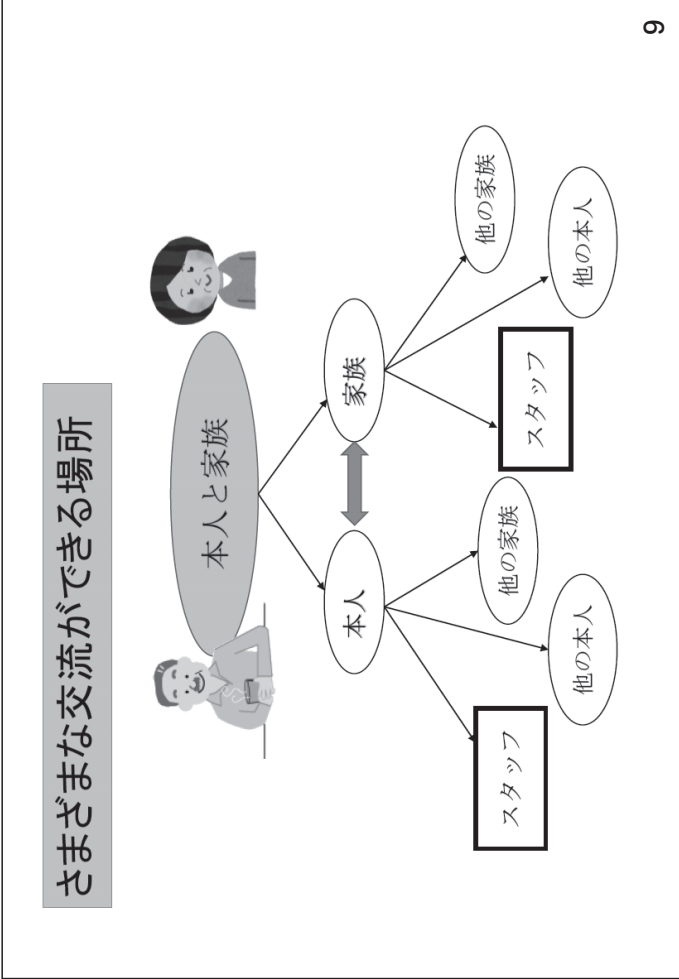
6

本人ニーズと家族ニーズの相反へのアプローチ



イラストはTogether Vol.5より

8



私にとっての2号店
オレンジカフェ上京
(緑化運動型?)

11

オレンジカフェ上京の開店
予約不要の地域に開かれたカフェとして運営

14時～14時半 ミニレクチャー・インタビュー
 専門家のミニレクチャー
 地域専門職へのインタビュー

14時半～15時 音楽の生演奏

15時～16時 カフェタイム

スタッフは12時半集合後、事前準備。
 カフェ終了後に後片付けや振り返しを行い17時頃解散。

12



主催は「オレンジカフェ上京実行委員会」

- ・上京区通所介護・小規模多機能事業所等連絡会「ささえ愛の会」
- ・京都府訪問看護ステーション協議会B地区（上京区）
- ・上京区地域介護予防推進センター
- ・上京区社会福祉協議会
- ・NPO法人オレンジココモンズ

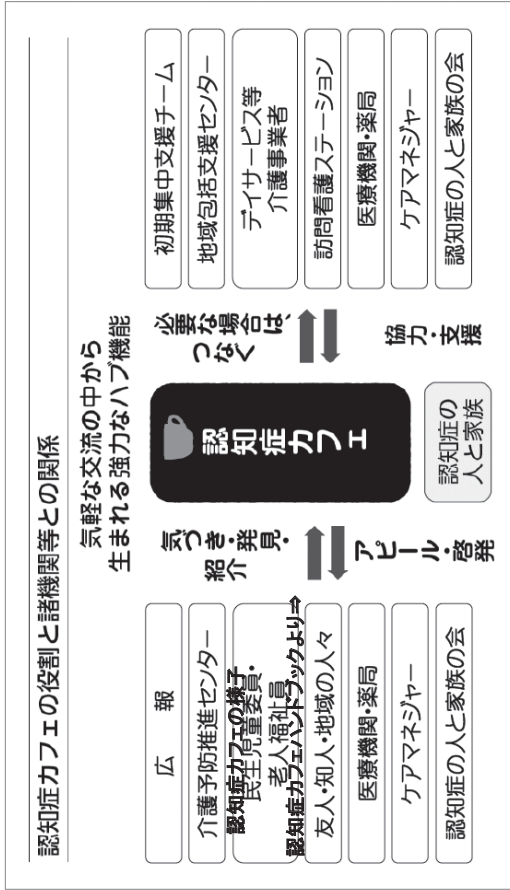
協力団体として

- ・上京区内地域包括支援センター（小川、成逸、乾隆、仁和）
- ・地域の民生児童委員協議会（開催場所による）

カフェスタッフとして、その他、有志の方々

*上取、主催・協力団体は発足当初の状況を記しています。 13

認知症カフェを通じて、本人の視点の浸透と、地域の人々や専門職の意識を変革



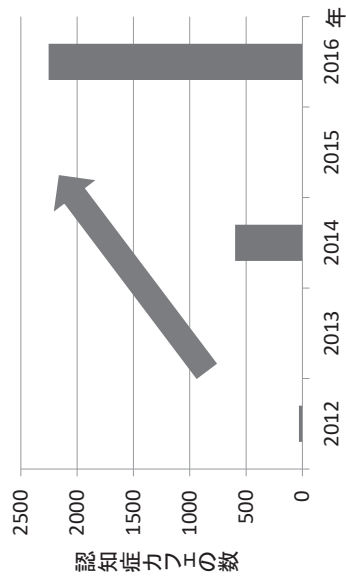
認知症カフェハンドブック(クリエイティブかもがわ 2015)より一部改変 14

認知症カフェに期待される主な効果

- 認知症の本人:**
- 同じ立場の人とつながり、交流することができる
 - 認知機能低下に引け目を感じることなく社会との接点を持つ
 - 本人とスタッフが、対等な生活者として個性を尊重した交流ができる
- 認知症の人の家族:**
- 同じ病気の家族を持った同士での日常の困難さや様々な工夫を話し合える
 - 専門職にも気軽に相談できる
 - 自分の家族以外の認知症の人の様子を見聞きすることで、視野が広がる
- 専門職のスタッフ:**
- 初期の認知症の人やその家族の葛藤や悩みをじかに感じる
 - 認知症の人が持つ生活者としてのバイタリティを感じる事ができる
- 市民ボランティア:**
- 認知症を生きる人々への接し方を深く学ぶことができる

貳地 ー 日本老年医学会雑誌 2015 15

日本での認知症カフェの増加



認知症カフェに関する疑問・不安がいっぱいあるのも事実です

”認知症カフェ”のネームに御家族や御本人が抵抗を感じていらつしゃる面がある。また、御本人と一緒に参加すれば、相談できない面があり、参加できないとの声があり、家族のみの参加が多い。

送迎や弁当を出してしまうので仕方ないが、サービスの機能を求められている気がする。一般参加の方も、認知症ケアに関わるというより、自分達のおしゃべりサロンにしているふしもある。

認知症カフェの定義がよくわからないので、今の内容が正しいのかどうかかわからない。持ち出し費用があり、所属機関に対して費用対効果を説明しづらい。

認知症についての住民の認識は、個人的なことでは自分には関係ないと考えている人が多い。”認知症予防”に重点を置いて運営すべきか？

地域にはまだまだ認知症で苦しんでいる人や家族がいるので、どの様に掘り起こしていくかが課題である。

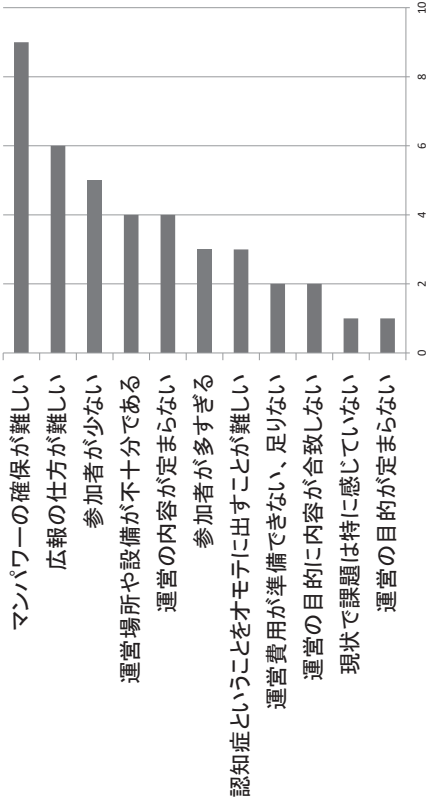
平成28年度厚労省老健事業 認知症カフェの実態に関する調査「継続に不安を持つ方の課題」より 17

オレンジカフェコモンズの沿革

- ・2012年4月頃から計画し、2012年9月にオープン
- ・専門職など数名が企画・立案
- ・市民並びに学生ボランティアに声をかけて、スタッフとして登録・研修
- ・来店者は、認知症の人と家族、特に若年性あるいは前期高齢発症の人
- ・来店者の案内は、当初、企画者の病院に通院する人に声かけ
- ・原則、予約制
- ・店の場所は、街中の民家風のスペース
- ・開店は週1回、11時～15時(当初は、10時半～15時半)
- ・開店中は特にスケジュールはなく、会話を中心にその日の流れで行動
- ・利用料は、飲み物代100円
- ・運営母体はNPO法人オレンジコモンズ(2014年4月設立)
- ・運営資金は補助金・助成金を申請
- ・主な支出は、スタッフ謝金(ボランティアは希望により無償と有償を選択)
- ・その他の支出は、その時に応じてであるが、場所代、通信費等
- ・平成27年度の来店者数は、認知症の人245人、家族234人(36回開催)
- ・平成27年度のスタッフ参加数は355人

19

運営での課題



京都認知症カフェ連絡会アンケートより(2015.06) 18

～研修受講者からみたオレンジカフェコモンズ～

オレンジカフェコモンズを語るには、様々な語り方がある。

- ・カフェを運営する側の人が、自分たちのカフェを語ること
- ・カフェに来店者として来る人がカフェでの経験を話すこと
- ・自分たちのカフェを創ろうとする人が、カフェを見て観察したこと

認知症カフェOJT研修(On the Job Training)

- ・平成27年度実施
- ・研修希望者は申し込み受諾の後、研修前に事前資料を確認
- ・当日は、10時集合、17時頃まで1日のカフェを経験
- ・終了後にレポートを記載し、レポート内容を確認後、修了証受け取り
- ・平成27年度、37名が受講・修了
- ・修了者のレポート、36000字。そこから何が見えてきたか！？

20

カフェの雰囲気や存在意義に関する要素

- ① 「カフェ」という設定による自然な参加意識と居心地の良さ
- ② 認知症カフェを成り立たせている要素と地域におけるカフェの意義

「皆さんの明るさにおどろかされました。各テーブルで笑い声があった。」

「カフェを運営するための基盤として人財、場所(空間)、知識、情報、物、費用、運営力、推進力、継続力等が必要だとわかった」

21

参加している認知症の人やその家族に関する要素

- ① 本人が自分らしさを実感し、ありのままに過ごせる場
- ② 家族が辛さや不安を気兼ねなく語れる場
- ③ 本人と家族が共に集うことで生み出される新たな繋がりが

「カフェでは皆で寄り集うことによって生活上の不安や人間関係の不安などの孤独感から解放される」

「介護者同士で悩みごとを相談しあっておられたとき、専門職との話し合いの中ではなかなか出ないような本音が話し合われていた」

「本人もありのままにくつろげ、そんな本人の姿も垣間みることができる場所があることは、大切だと思った」

22

カフェスタッフに関する要素

- ① 市民、学生、専門職からなるスタッフの構成とその役割
- ② スタッフの学びの積み重ねや熱意とそれぞれの視点
- ③ 振り返りによるスタッフの情報共有と団結力
- ④ 来訪者のニーズを知り、心地よい環境を目指すスタッフの動き

「市民・学生ボランティアも力量を高めればカフェスタッフとして機能することがわかった」

「多くの年代の人が集まることで活力があがり、いろいろな視点から活動を見つめることができていた」

「記憶が失われていく不安や恐怖を和らげ、楽しい空間となるよう関わるボランティアの自然な対応に多くを学んだ」

23

有意義なカフェを作っていくためには

—— カフェの雰囲気や存在意義に関する要素

参加している認知症の人やその家族に関する要素

カフェスタッフに関する要素

24

認知症カフェについて2冊目の本を、出版しました。

違いはと問われると？

2015年2月



2017年5月



認知症カフェがどのような
ものを着わしています

セカンドステージに向けた
メッセージを記載しています

認知症の人の家族と接するとき

- 認知症の人を見守る家族の気持ちを理解し、家族が話したいと思えるような傾聴ができますか？
- 家族の認知症症状への理解が不十分な場合、病気の特徴や接し方をアドバイスできますか？
- 家族が困っていることに対し、助言ができますか？（内容は多岐にわたります）
- 介護保険サービス利用に関して適切なアドバイスができますか？
- 家族自身の健康や生活に対して助言や気を配ることができ
か？

本人と家族双方へのかかわり

- 認知症の人と家族の相互関係について理解して、両者が良い関係になるようにコーディネートができますか？
- 家族が、日々の生活の中で、従来認知症の人がしていた役割を担っていることを理解し、心理的支援や助言ができますか？

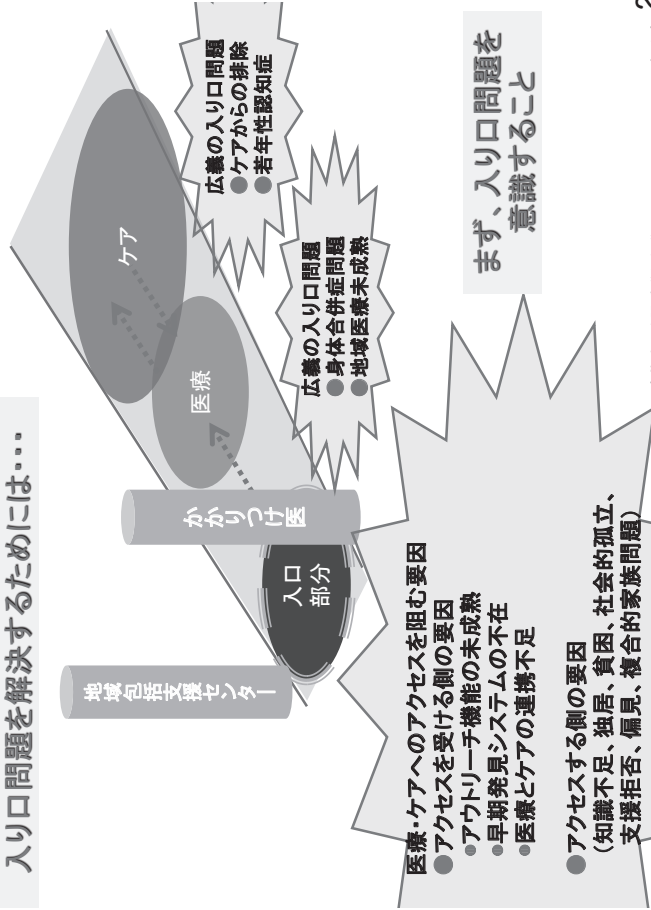
認知症の人と接するとき①

- 「介護してあげる」という一方的な気持ちではなく、友人として一緒に楽しもうとしていますか？
- 遠隔記憶（昔のことなど）と近時記憶（最近のことや10分前のこと）の違いを理解して、本人と会話をすることができますか？
- 疾患の種類や重症度（FASTステージなど）を意識して、本人へのかかわりや会話、助言、同行ができますか？
- 病識の有無や程度を理解して、本人へのかかわりや会話などができますか？
- 本人の得意なことや興味があることを引き出すことができますか？
- 本人の不安感を意識し、安心を与えるような会話やかかわりができますか？（会話の複雑さや声のトーンなどの調節も必要）

認知症について、このようなことも心得ておこう

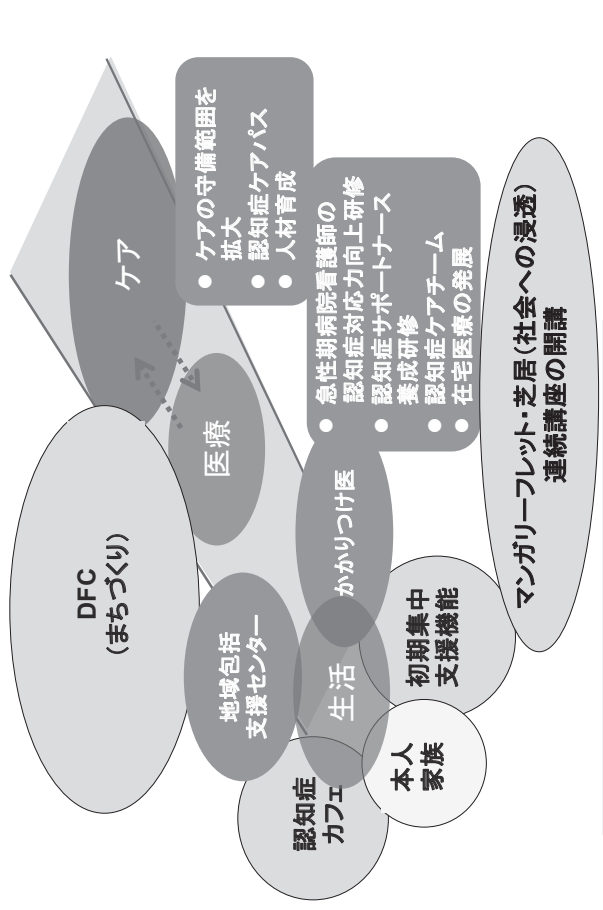
- 認知症の中核症状と行動心理症状にわけて治療期間や治療目標の違いが説明できますか？
- 認知症の人に良い状態と悪い状態があることを意識し、その状態が周囲の人の理解や接し方によって変化することを理解できていますか？
- 認知症の本人や家族がみずから支援を求めて医療やケアの場に現れるのが難しい場合があることを意識し、そのような場合の対応法について専門職と相談することができますか？
- 若年性認知症の場合の本人・家族の特別な心境や制度利用について知識を持ち、かかわることができますか？
- ボランティア同士の考え方が異なるとき、時には他者のやり方に従ってみようと思うことはできますか？
- 地域の人々のニーズをくみ取り、認知症についての地域啓発に大切な助言を行うことができますか？

入り口問題を解決するためには・・・



認知症カフェのセカンドステージに向けて

認知症ケアを考える地域の人びと、専門職などがあーでもない、こーでもない、話し合いながら協力して、認知症の本人にとっても家族にとっても、そして、これから認知症になる可能性のある人々にとっても住みよい地域をつくる、具体的な作業を行う場が、認知症カフェなのかなと思います。



入り口とケアはシームレスに連続・・・

M E M O

報告 1

14:55 ~ 15:20

オレンジカフェよかところ ～認知症高齢者の見守り拠点としての役割～

谷 祐樹

長崎市琴海地域包括支援センター 管理者

プロフィール

谷 祐樹（たに ゆうき）

●現職

長崎市琴海地域包括支援センター 管理者

●資格

社会福祉士、介護支援専門員

●その他の役職

2015年4月～ 長崎県社会福祉士会 理事

2017年4月～ 長崎県社会福祉士会 権利擁護センターばあとなあ長崎 運営委員長

オレンジカフェよかとこ ～認知症高齢者の見守り拠点としての役割～



長崎市琴海地域包括支援センター
管理者 谷 祐樹

1

長崎市の紹介 (H29.12月現在)

- ◇人 口：426,531人
- ◇高齢者数：130,569人
- ◇高齢化率：30.6%
- ◇認定率：22.3%



【地域包括支援センター設置主体】

- ・センター数：20箇所
- ・設置主体：委託10割

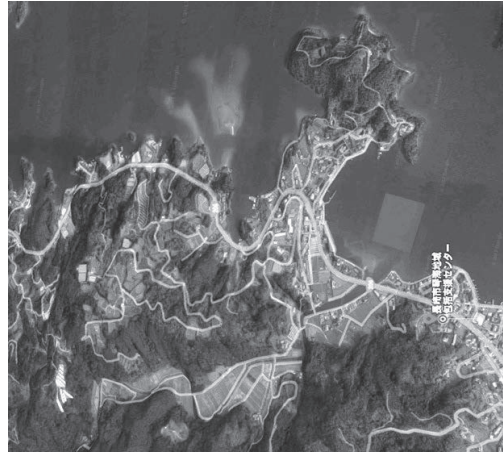
【認知症カフェ開設状況】

- ・包括：15ヶ所
- ・医療機関：3ヶ所

2

琴海地区の紹介 (H29.12月現在)

- ◇面積：67.63km²
- ◇人口：12,320人
- ◇高齢者数：4,129人
- ◇高齢化率：33.5%
- ◇認定率：22.3%



長崎市琴海地域
包括支援センター

【琴海地域包括支援センター人員配置】

- ・主任介護支援専門員 1名
- ・保健師 1名
- ・社会福祉士 3名
- (うち認知症地域支援推進員1名)

3

オレンジカフェよかとこの前身

☆きんかい介護家族会 (H25.7月～)

認知症の方や身体介護が必要な方を介護されているご家族などが、お互いの悩みを相談し、情報交換を行う少人数の会

- 【日時】 毎月第3木曜日 10:30～12:00
- 【場所】 『琴海南部総合センター』
- 【対象者】 介護をしている方、介護の経験がある方
介護をする予定のある方



H27年4月～「認知症カフェ」としてモデル事業実施
(長崎市内3か所)

4

オレンジカフェよかとこ (事前準備：H27.4月～5月)

- > 情報収集 (書籍、各地の子ラシ等、視察)
- > 認知症カフェのネーミング募集 (対象：介護保険事業所、認知症サポートリーダー)
- > 開催場所の選定
- > 医療機関等へ挨拶回り、ポスターの掲示 (病院・薬局・商店 等)

認知症カフェよかとこ
 とき：毎月第2土曜日 13:00～15:00
 ところ：琴海活性化センター【四季彩館】
 (長崎市長浦町50番5)

認知症カフェとは、誰もが
お茶を飲みながら気軽に
認知症の相談や情報交換
を通して、楽しく認知症の
ことを知ることができ
場です。お気軽にご参加
ください。

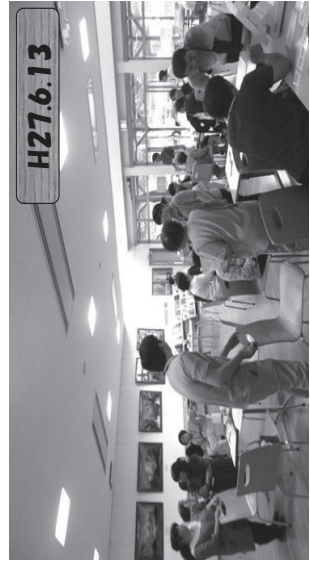
相談
情報
交換
交流

お問い合わせ：長崎県認知症支援センター 095-840-7111

5

オレンジカフェよかとこ

オレンジカフェよかとこ
 毎月第2土曜日
 13:00～15:00



H27.6.13

- ～内 容～
- > 認知症に関する講話
 - > 情報交換
 - > 専門職への相談
 - > 脳の元気度チェック (タッチパネル)
 - > パンフレットブース

6

オレンジカフェよかとこ
 平成30年 2月10日(土)
 平成30年 3月10日(土)
 時間 OPEN 13:00～ CLOSE 15:00
 場所 琴海活性化センター
 【四季彩館】
 (長崎市長浦町50番5)

参加費無料

対象者 認知症の方やご家族、地域住民、専門職など
 内容 ①情報交換 ②情報交換に関する講話(有料)③パネル
 ④専門職への相談(有料)⑤お茶(無料)

【2月のイベント】
 テーマ 「認知症に併発する関節炎が怖い」
 講師：このみ診療所 岡田 公敏氏
 長崎県立総合医療センター 池田 尚史氏

【3月のイベント】
 テーマ 「認知症と車の運転」
 講師：許容検査についで 中村文昭氏
 許容検査についで 池田尚史氏
 形上 健吾氏

お問い合わせ：長崎県認知症支援センター TEL095-840-7111

7

オレンジカフェよかとこ (脳の元気度チェック)

問題6 横断りでお茶を飲むの習慣を身に付けてください。
 問題7 認知症の予防に効果的なのは？
 問題8 認知症の予防に効果的なのは？

結果 5 20

脳元気度チェック

オレンジカフェよかとこ

8

オレンジカフェよかとこ（講師による講話）



9

オレンジカフェよかとこ（笑いヨガ）



10

オレンジカフェよかとこ（事業所紹介）



11

オレンジカフェよかとこ（交流・個別相談）



12

オレンジカフェ×いなカフェ（コラボ企画）



13

オレンジカフェよかとこ（テーマ・講師）

H29	テーマ	講師（職種等）
4月	記憶と香りの関係 ～生活の中で香りを楽しむ♪～ ぬくもりを届けたい、手から心へ ～音楽レクリエーションを楽しみましょう♪～	アロマセラピーインストラクター もっこい長崎 リレーヨガ ルア お手玉の会
6月	認知症について 看護師さん聞いてみよう！	認知症看護認定看護師
7月	認知症の早期受診の大切さと 認知症の人の関わり方について	精神科医
8月	認知症と口腔ケアの仕方について	歯科医師
9月	想い出の効果Ⅱ	認知症疾患医療センター相談員
10月	認知症と食生活 ～旬の野菜や地元食材を使って～	管理栄養士
11月	認知症高齢者の転倒予防	理学療法士
12月	認知症予防の方法 ～最新情報を加えて～	作業療法士
1月	笑いヨガで認知症予防♪	ながさき笑いヨガ倶楽部
2月	認知症には糖質制限が良い	薬剤師
3月	認知症と車の運転・詐欺被害について	警察官

15

オレンジカフェよかとこ（定着化への取り組み）

- リピーターの確保
 - ・事後アンケート
 - ・参加者への参加案内（ハガキ）
- 気軽に立ち寄れる雰囲気づくり
 - ・名称変更
（認知症カフェ⇒オレンジカフェ）
 - ・エプロン、テーブルクロス購入
 - ・ドリンクサーバーの提供
 - ・手作りのぼりの作成
- 周知活動の強化
 - ・包括広報誌、地域の広報誌への掲載
 - ・認知サポーターによる新聞へのコラム掲載
 - ・新聞での案内



14

オレンジカフェよかとこ（参加者内訳）

参加者内訳	H27年度	H28年度	H29年度	備考
本人	07	17	25	
家族	15	18	25	
地域住民	74	102	135	
医療・福祉関係者	64	64	70	・他エリア包括支援センター ・多機能型包括支援センター ・薬剤師、看護師 ・ケアマネジャー ・駐在所 等
介護保険事業所の利用者と付添スタッフ	133	51	61	・デイサービス ・グループホーム ・ショートステイ ・特別養護老人ホーム 等
その他	0	0	15	・大学生、障害者施設
平均（1つきあたり）	31.5	25.2	31.5	
認知症サポーターリーダー	36	28	25	（協力者）
圏域包括支援センター	23	33	37	（主催者）

16

オレンジカフェよかとこ（参加者の声）

（家族）

- ・家族同士が気軽に話せる関係ができ自分もリフレッシュできている。
- ・本人が楽しんでいて姿を見ることができて嬉しい。

（地域住民）

- ・毎回ためになる話が聞けるのでカフェに行くことが楽しみ。

（認知症サポートリーダー）

- ・暖かい雰囲気が良い。地域の人の手助けをしたいので、今後も協力したい。

（専門職）

- ・講話もためになるし講師から直接助言がもらえこれからの業務に活かしたい。

（施設利用者）

- ・以前の知人に会えてうれしい。



17

オレンジカフェよかとこ（効果・考察）

- 参加者の増加（紹介、広報誌、新聞）
- 参加者からの相談 ⇒ 専門医受診、サービス紹介
- 参加者からの情報提供 ⇒ 包括がフオロー
- 支援の協力体制構築、情報共有の場



オレンジカフェよかとこ



認知症高齢者の見守り拠点

18

カフェくちなし

～地域とのつながりでできること～

齊藤 千晶

認知症介護研究・研修大府センター 研究員

プロフィール

齊藤 千晶 (さいとう ちあき)

●経歴

平成 14 年 JA 愛知厚生連海南病院 リハビリテーション科 作業療法部門

平成 19 年 専門学校 愛知医療学院 作業療法学科 非常勤講師

平成 21 年 認知症介護研究・研修大府センター研究部研究員、現在に至る。

●資格、所属学会

作業療法士

日本作業療法士会、愛知県作業療法士会、日本認知症ケア学会、日本音響学会

●受賞

平成 25 年 日本認知症ケア学会 石崎賞

平成 29 年 日本認知症ケア学会 石崎賞

設立の経緯

- 平成27年8月 地域貢献事業の一つとして「認知症カフェ」を提案
 - ・ 認知症カフェの勉強会開催
- 平成27年12月 ・ 認知症カフェの見学
- ～平成28年5月 ・ ボランティア向け研修会開催
 - ・ オープン準備 …など
- 平成28年7月 カフェ❀くちなし オープン

名前の由来



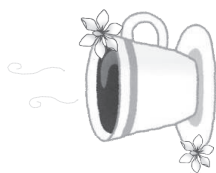
- ◆ 大府市の花「くちなし」
- ◆ 花言葉：「幸せを運ぶ」「私は幸せ者」

2

「カフェ❀くちなし」

-地域とのつながりのできること-

社会福祉法人 仁至会
 認知症介護研究・研修大府センター 研究部
 研究員／作業療法士 齊藤 千晶



1

コンセプト（共通理念）

カフェ❀くちなし

本日は「カフェ❀くちなし」にご来店いただきありがとうございます

大府市の花でもある「くちなし」花言葉は「幸せを運ぶ」「私は幸せ者」です

「カフェ❀くちなし」は皆様と共に成長し皆様と共に「幸せを運ぶ」場所として皆様が輝け「幸せ」を感じる場所にそんな思いを込めて名付けました

皆様と共に成長し素敵な花を咲かせていきたいと考えております一緒にカフェ❀くちなしを盛り上げていきませんか？

「カフェ❀くちなし」スタッフ一同

「みんなが輝ける場所」

- ◆ ともに支え合い、ふれ合える場
- ◆ 安心して来ることが出来る場
安心して過ごせる場
- ◆ 参加する認知症の人が主役になれる場
- ◆ カフェ以外でも輝ける場につながる
ことのできる場

3

概要

【主なスタッフ】

仁至会スタッフ： 医師、作業療法士、認知症介護指導者
 コールセンター相談員（看護師、介護福祉士等）
 事務員

ボランティア： 大府市職員、地域包括支援センター職員
 認知症地域支援推進員、傾聴ボランティア
 地域住民、スタッフの子供

【場 所】 認知症介護研究・研修大府センター 1Fロビー

【日 時】 毎月第2日曜 10：00～12：00

【参加費】 200円（茶菓子代）

【参加者】 どなたでも

4

内容

カフェくちなし
 みなで交流の場ながら、
 ネットとしたりとを一緒に楽しませんか？

お茶会、ゲーム、おしゃべり、歌を聴いたり踊ったり、
 交流の場が広がる。おしゃべりや歌を聴いたり踊ったり、
 交流の場が広がる。

いれたコーヒーや茶、お菓子をお楽しみしながら、ゆったりとした
 月曜から金曜のカフェタイム。おしゃべりや歌を聴いたり踊ったりと
 月曜から金曜のカフェタイム。おしゃべりや歌を聴いたり踊ったりと

開催日時：毎月第2日曜日 10:00~12:00
 場所：大府市立市民センター・第2ホール
 参加費：200円（お菓子代）※お茶代別
 2018年 4月8日（日）08:00～09:00
 10月14日（日）08:00～09:00
 2019年 1月18日（日）08:00～09:00
 2019年 4月14日（日）08:00～09:00

※お申し込みは、お申し込みフォームにてお申し込みください。
 ※お申し込みは、お申し込みフォームにてお申し込みください。
 ※お申し込みは、お申し込みフォームにてお申し込みください。

お問い合わせ先
 大府市立市民センター
 〒474-0037 愛知県大府市月形3丁目29-4
 電話：0562-44-5551
 受付時間：平日 9:00～17:00
 大府市立市民センター
 〒474-0037 愛知県大府市月形3丁目29-4
 電話：0562-44-7755
 受付時間：平日 9:00～17:00

【カフェの内容】
 10:00~10:45 カフェタイム
 10:45~11:15 イベント
 11:15~12:00 カフェタイム
 ミニコンサート
 もしくは
 健康体操（希望者）

- ◆ 3部構成
- ◆ 内容にメリハリをつけ
 気軽に参加できるよう配慮
- ◆ 途中の入退出が自由

5

開催時の様子

季節感を大切にされた空間
手作り作品であたたかい雰囲気



くちなし通信 No.14

お前は、当センター・加齢センター員による、毎月2回発行の「くちなし通信」についての記事です。

最新の記事
 ＊最新の記事
 ＊最新の記事
 ＊最新の記事
 ＊最新の記事

「くちなし通信」は、毎月2回発行の「くちなし通信」についての記事です。

今年も夏休み、あつちなし通信を
 今年も夏休み、あつちなし通信を

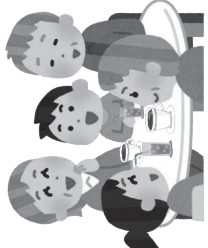
次回9月10日（日）
 10時～12時
 開催場所：大府市立市民センター
 参加費：200円（お菓子代）※お茶代別

お問い合わせ先
 大府市立市民センター
 〒474-0037 愛知県大府市月形3丁目29-4
 電話：0562-44-5551
 受付時間：平日 9:00～17:00
 大府市立市民センター
 〒474-0037 愛知県大府市月形3丁目29-4
 電話：0562-44-7755
 受付時間：平日 9:00～17:00

毎月、前回のカフェの様子等を
記載したチラシを作成・配布

6

「カフェくちなし」とは？



- 気軽に来れる場
- 情報交換ができる場
- 楽しみや学びのある場
- 安心して過ごせる場

『できること』で活躍する場
 『やってみよう』で活躍する場
 『つながる』を実現できる場

『できること』で活躍する場

- ◆ 毎月のイベントは基本的に大府市内在中・在勤の方に依頼
- ◆ 社会福祉協議会の登録ボランティアグループ、シルバー人材センター、地域包括支援センター、大府市職員、当法人職員等



8

『やってみたい』で活躍する場 - Bさん -



- Bさん (70代、男性。認知症の奥様を介護中)
- ◆ 歌が得意。地域の合唱団でも活躍中
 - ◆ 奥様と地域の卓球教室にも参加
 - ◆ カフェのオープン当初から奥様とご参加

日付	カフェ内外の出来事
平成28年 6月	プレオープンのチラシを見て、問合せあり 「カフェに参加したいが妻が認知症です。チラシには「認知症」という文言が記載されています。場合によっては、本人が気にするのではないかと心配です」
7月	カフェに参加
9月	大府市主催の家族支援プログラム講座に参加
12月	大府市社会福祉協議会主催 『認知症サポーターフォローアップ講座』で講師として参加 奥様の介護をとおして、感じたことなどをお話される

9

『つながる』を実現できる場

- ◆ 認知症の妻を介護中の夫。介護保険サービスは利用していない。
カフェに参加し、奥様が周囲と談笑する姿を見て
サービス利用に対する不安が軽減。
- ◆ 認知症と診断直後の夫を介護中。妻自身、持病があり
カフェ参加当初は不安が強い様子。カフェの和やかな
雰囲気で見守りやお気持ち等をお話され、傾聴することで
少しずつ笑顔が増える。
- ◆ 子どもが膨らました風船で
参加者同士、風船バレーが
はじまる。
- ◆ カフェで偶然、旧友と再会。
関係が復活。カフェと一緒に
出かける1つの場所となる。

11

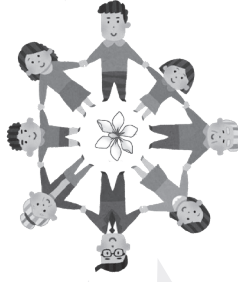
『やってみたい』で活躍する場 - Bさん -

日付	カフェ内外の出来事
平成29年 7月	カフェにケーブルTVの取材が入る 奥様とともに出演
9月	Bさんから、仲間と「コンサート」をやってみたいと提案 Bさん主体で企画、チラシ作成。スタッフはサポート役
10月	スタッフとコンサートの打合せ その間、奥様とは別々の席で過ごされる
11月	コンサート開催！

- ◆ コンサートを機に、卓球仲間も毎月カフェに参加
- ◆ Bさん・奥様とともに安心し、楽しいひと時を仲間とともに共有できる
時間が増えた
- ◆ Bさんは「妻との楽しい時間が1日でも長く続くと嬉しい」と話される

10

『つながる』ためには？



カフェをもっと
多くの人に
知ってもらいたい！

「認知症」に対する
理解がもっと
深まって欲しい！

当事者の方にも
もっと参加して欲しい！

他のカフェとも
情報交換したい！

1 事業所では限界がある

多施設、多職種、地域で協力する必要性

12

『つながる』ために行っていること①

大府市カフェマップ

1月 カフェ開催日程

1月 2月 3月

1月 2月 3月

1月 2月 3月

大府市職員と認知症地域支援推進員が中心となり、作成
近隣病院や事業所などに各々のカフェのチラシとともに配布

13

『つながる』ために行っていること③

- ◆ 『認知症サポーターフォローアップ講座』や『認知症家族の交流会』に参加 (平成29年度)



- ◆ 認知症ご本人とご家族のカフェ参加の契機
- ◆ 直接伝えることの大切さを実感

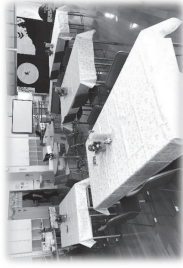
- ◆ 認知症カフェ交流会 (平成28年度～)

- 3か月に1回開催
- 大府市職員、認知症地域支援推進員を中心に、市内の認知症カフェスタッフ、地域包括支援センター職員が集まり、情報交換を行う

15

『つながる』ために行っていること②

大府市主催『福祉・健康フェア』に参加
(平成28・29年度)



社会福祉協議会・地域包括支援センター
ボランティアグループ・当センター合同で
市民向けの認知症啓発イベント開催



『おおぶ・あったか合同認知症カフェ』開催
(平成29年度)

大府市職員、認知症地域支援推進員
大府市内の認知症カフェスタッフで
企画・運営



大府市『ウェルネスバレーめぐり』に参加
(平成29年度～)

14

今後、検討したいこと

移動手段

- ◆ 参加者の多くが、車で来ている
早期からの関わり
- ◆ 認知症初期集中支援チームとの連携など
- ◆ こまめな情報発信 ⇒ 当法人HP上で情報アップ

参加者の声をより反映した場作り

- ◆ プログラム内容、人員の検討
- ◆ 参加者の“できること”“やりたい”“やってみよう”を引き出す仕掛け

16

YouTube (ユーチューブ) で

「カフェくちなし」の紹介映像がご覧いただけます！



インターネットの検索サイトから以下の言葉で検索し、ご覧ください！

“スマイルおおぶ「おおぶ・あったか認知症カフェ」 ユーチューブ” 17

ディスカッション 〈座長〉小長谷 陽子 (認知症介護研究・研修大府センター 研究部長)

ディスカッション 15:45 ~ 16:15

矢吹 知之

(認知症介護研究・研修仙台センター 主任研修研究員)

武地 一

(藤田保健衛生大学医学部 認知症・高齢診療科 教授)

谷 祐樹

(長崎市琴海地域包括支援センター 管理者)

齊藤 千晶

(認知症介護研究・研修大府センター 研究員)

認知症介護情報ネットワーク (DCnet)

認知症介護研究・研修センター

DCnet は認知症介護研究・研修センターが運営するホームページです。
認知症介護に関する総合的な情報提供を目指しています。

認知症介護のことなら DCnet

**認知症とはどんな病気？
よく解る認知症シリーズ**

- ◆ 認知症を知る
- ◆ もの忘れ外来って何？
- ◆ スクリーニングテストとは？
- ◆ 認知症予防！あれこれ
- ◆ 若年性認知症の支援について
- ◆ アルツハイマー病の治療薬について

**認知症の方にはどう接するの？
動画で学ぶ認知症「知ってるほど塾」**

- ◆ 認知症の基礎知識
- ◆ 認知症に伴う行動及び心理症状の理解
- ◆ その人らしさを支援するための理解

**65歳以上の
5人に1人は認知症！
(厚生省推計)**

DCnetは、認知症介護研究・研修センターが運営するホームページです。
認知症介護の専門職員育成のための研修情報や、最新の研究成果について情報提供しています。

<http://www.dcnnet.gr.jp/>

認知症介護・研修情報

認知症介護の専門職員養成及び在宅介護を支援する人材育成のための研修情報

- ◆ 認知症介護指導者養成研修案内
- ◆ 「ひとときシート」を活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修案内
- ◆ パーソン・センタード・ケア及び認知症ケアマッピング (DCM) 法研修案内
- ◆ 家族支援に向けたスキルアップ研修案内



認知症介護指導者養成研修

一 認知症介護指導者養成研修とは
研修者(指導者)は、認知症介護の専門家として、認知症介護の現場に指導的役割を担うことになり、その役割を担うためには、認知症介護の専門家としての知識、技能、態度を身に付ける必要があります。本研修では、認知症介護の専門家としての知識、技能、態度を身に付けるための研修を行います。

二 認知症介護指導者養成研修の目的
認知症介護の専門家としての知識、技能、態度を身に付けることにより、認知症介護の現場に指導的役割を担うことができるようになることです。

三 認知症介護指導者養成研修の研修内容
認知症介護の基礎知識、認知症介護の現場での実践、認知症介護の指導的役割などについて学びます。

四 認知症介護指導者養成研修の研修方法
講義、実習、グループワークなどを行います。

五 認知症介護指導者養成研修の研修期間
研修期間は、研修内容に応じて異なります。

六 認知症介護指導者養成研修の研修費用
研修費用は、研修内容に応じて異なります。

七 認知症介護指導者養成研修の研修申し込み
研修申し込みは、研修案内をご覧ください。

研修教材ダウンロード

- ・ひとときシート
- ・ひとときテキスト
- ・在宅支援研修教材

などなど、施設内研修で利用できる教材をダウンロードすることができます。

研究情報

研究報告書、研究成果物の

閲覧・ダウンロードできます。

- ◆ 初めての認知症介護「食事・入浴・排泄編」・解説集
- ◆ 若年性認知症支援ハンドブック等
- ◆ 高齢者虐待防止支援ハンドブック等
- ◆ センター方式シートテキスト

認知症介護研究についてもっと知りたいあなたに

認知症介護研究データベース

国内の研究論文、総説、レビューなどが検索できます。保健、医療、福祉分野における認知症介護研究者、実践家、政策立案担当者の活動に最適！
本データベースは、平成 23 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業において作成されました。

研究報告書/センター研究報告書

「カテゴリ検索」では、特定の分野に絞り込んで研究報告書を探すことができます。チェックボックスをクリックして確認してください。複数指定可能です。

研究カテゴリの検索

- ターミナルケア
- 痴呆支援法
- 権利擁護
- 介護職等専門家
- 若年性認知症
- エビデンス/エビデンス法や評価 能力
- 認知の機能、EOL/介護評価の方法
- 療法/リハビリ/ケア/デバイス
- 家族・介護者支援
- 人材育成・教育法
- その他

- ストレスマネジメント
- サービス体制や体制
- 病態説明
- 虐待防止
- 予防
- ケアホーム
- アプローチ/法/ケア
- リスクマネジメント
- 介護技法や生活
- 認知症ケア研修

報告書ダウンロード

- ・高齢者虐待防止教育関連
- ・若年性認知症関連
- ・認知症地域支援関連

などなど、検索機能もついで、自己学習資料、指導用参考資料に最適です。

検索キーワード検索

認知症介護研究データベースに登録されている全ての総説、特設記事、実践報告、研究論文を検索します。

検索語: _____

年次: _____

検索

研究論文から探す

詳細条件で論文検索 (総説・特設記事・実践報告)

研究論文から、詳細条件を指定

検索条件

- 不明
- コミュニケーション法
- 介護
- 療法
- ソーシャルワーク、相談
- クラス/マネジメント/手法
- BPSD
- ターミナルケア
- 権利擁護
- アクティビティ
- 介護支援、ケア条件
- 身体介護
- 予防
- 虐待
- 認知・リスクマネジメント
- 制度・社会システム

DCnet 認知症介護情報ネットワーク
Dementia Care Information Network

<http://www.dcnnet.gr.jp/>

認知症介護研究・研修仙台センター TEL022-303-7550 FAX022-303-7570 〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 6-149-1

認知症介護研究・研修東京センター TEL03-3334-2173 FAX03-3334-2718 〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-12-1

認知症介護研究・研修大府センター TEL0562-44-5551 FAX0562-44-5831 〒474-0037 愛知県大府市半月町 3-294

パーソン・センタード・ケアとDCM(認知症ケアマッピング)公式HP

認知症介護研究・研修大府センター

パーソン・センタード・ケアの理念を実践するために考案されたDCM(認知症ケアマッピング)。認知症を抱える人の視点に立とうとすること、またその人の可能性に着目することなどの考え方を学ぶDCM研修の情報が掲載されています。

ホームページアドレス : <http://www.dcm-obu.jp/>

パーソン・センタード・ケアと
お問い合わせ | アクセス | 文字サイズ 小 大 | |

認知症ケアマッピング(DCM)

DCMについて
DCM研修情報
研修のお申し込み
研究・パンフ・書籍
J-P-Dネットワーク情報



DCMは、認知症の人の内面をわかろうとする気持ちと観察の技能を用いて、認知症の人の立場に立とうという真摯な取り組みである

Kitwood, 1997 p.4 水野裕「Dementia Care Mappingの臨床的有用性と今後の課題」老精医、第19巻第6号、657-663、2008).

ニュース&トピックス

- 2017/01/28NEW [平成29年度「パーソン・センタード・ケア及び認知症ケアマッピング\(DCM\)法研修会」《基礎コース》及び《上級コース》開催のご案内](#)
- 2017/01/10 [「東日本フォローアップセミナー」のお知らせ](#)
- 2017/01/05 [「第16回 認知症を考える会～当事者の声を聴き、ともに生きる社会へ～」を開催のお知らせ](#)
- 2016/12/20 [「J-P-Dフォローアップセミナー\(一般用\)」のお知らせ](#)
- 2016/12/06 [「J-P-Dフォローアップセミナー」のお知らせ](#)

[▶ ニュース&トピックス 一覧へ](#)



認知症介護研究・研修大府センター-dcm推進室
507 いいね! の数

このページに「いいね!」

「いいね!」した友達はまだいません。

認知症介護研究・研修大府センター-dcm推進室さんが写真10件を追加しました。
1月20日 16:51

【2016フォローアップセミナーのご報告】
1月29日(日)に浜松医科大学にて、JPDネットワーク2016フォローアップセミナーが行われました。
参加の都府県ワーカー交流会が実施され、各地のワーカーが交流

DCM国際会議

DCM INTERNATIONAL IMPLEMENTATION GROUP

2016年6月7日(火)・8日(水)・9日(木)

会場: ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋



DCM推進室からのお知らせ



認知症介護情報ネットワーク
DCネット



DCM東日本交流会



NPOシリアー総合研究所



DCM関西地区ブロック会



NPO その人を中心とした
認知症ケアを考える会



認知症介護研究・研修大府センター

法人名: 社会福祉法人 仁至会
〒474-0037 愛知県大府市半月町3-29-4
TEL: 0562-44-5551 | FAX: 0562-44-5831

ホーム | お問い合わせ | プライバシーポリシー

Copyright (C) 認知症介護研究・研修大府センター All Right reserved.

若年性認知症コールセンター公式HP

認知症介護研究・研修大府センター

平成21年10月1日に、誰もが気軽に相談できて、専門的な支援機関に適切に結びつけられるよう、若年性認知症に係る相談コールセンターが全国に1カ所、認知症介護研究・研修大府センターに設置されました。若年性認知症に関する情報が掲載されています。

若年性認知症コールセンター

ホームページのご案内

若年性認知症に関する情報をみなさまにお届けします。

<http://y-ninchisyotel.net/>

若年性認知症コールセンター

検索

The screenshot shows the homepage layout with several callouts:

- 地図からお近くの事業所等を簡単に探せます**: A callout pointing to a map icon, explaining that users can click on their local area to find nearby facilities and services.
- 取材レポートを掲載**: A callout pointing to a report icon, explaining that the site features reports from staff who have visited facilities and services, with a red star icon indicating featured reports.
- みんなの広場**: A callout pointing to a community board icon, explaining that it is a space for sharing information about local facilities and services.
- 掲示板から施設・事業所の活動内容がご覧いただけます**: A callout pointing to a notice board icon, explaining that activities from various facilities and services are posted on the board.

若年性認知症にまつわる情報をコンテンツ別にご紹介

- コールセンターに届いた声
- 若年性認知症について知る
- 若年性認知症コールセンターからのご案内
- 生活を支える
- 生きがいを見つける
- 若年性認知症に関する役立つ情報

ひとりで悩まないで！認知症は高齢者だけの病気ではありません。

若年性認知症の
電話無料相談

フリーコール
(無料) **0800-100-2707**

●専門教育を受けた相談員が対応します。●個人情報は厳守します。

ご利用時間

月曜日～土曜日
(年末年始・祝日除く)
10:00～15:00



社会福祉法人 仁至会 認知症介護研究・研修大府センター 〒474-0037 愛知県大府市半月町三丁目294番地

若年性認知症支援コーディネーター

2015(平成27)年1月、厚生労働省は関係11府省と共同で「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」を策定し、都道府県ごとに若年性認知症の相談窓口を設置し、そこに若年性認知症の人の自立支援に関わる関係者のネットワークの調整役として、若年性認知症支援コーディネーターを2017(平成29)年度末までに配置することとしました。

若年性認知症支援コーディネーターは、若年性認知症の人のニーズに合った関係機関やサービス担当者との調整役であり、本人や家族の支援をワンストップで行います。

「若年性認知症」のことは 「若年性認知症支援 コーディネーター」 にご相談ください。

医療費助成、
障害年金など
利用できる社会制度
について知りたい

今の会社で
働き続けたい。
仕事がしたいけど
どうしたら良いの？

若年性認知症の人の
子供に対する
ケアは？

どのような
医療機関を
受診したら良いの？

若年性認知症支援コーディネーターとは

2015(平成27)年1月、厚生労働省は関係11府省と共同で「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」を策定し、都道府県ごとに若年性認知症の相談窓口を設置し、そこに若年性認知症の人の自立支援に関わる関係者のネットワークの調整役として、若年性認知症支援コーディネーターを2017(平成29)年度末までに配置することとしました。

若年性認知症支援コーディネーターは、若年性認知症の人のニーズに合った関係機関やサービス担当者との調整役であり、本人や家族の支援をワンストップで行います。

都道府県では

各都道府県では、ワンストップで行う相談窓口の設置の他、若年性認知症の人やそのご家族、さらに必要に応じて職場や産業医、地域の当事者団体や福祉サービスの事業所等と連携し、市町村と協力して就労の継続や居場所づくりの充実を進めています。

- 相談窓口の設置(若年性認知症支援コーディネーターによる相談)
- 市町村や関係機関との連携体制の構築
- 地域や関係機関に対する若年性認知症にかかる正しい知識の普及

※各都道府県の相談窓口は
裏面をご覧ください。

若年性認知症支援コーディネーターの主な役割

- 適切な専門医療機関への案内と継続的な支援
- 就労の継続に関する支援
- 利用できる制度・サービスの情報提供
- 本人・家族が交流できる居場所づくり支援



社会福祉法人 仁至会 認知症介護研究・研修大府センター

〒474-0037 愛知県大府市半月町三丁目294番地 TEL: 0562-44-5551

若年性認知症相談窓口一覧 (若年性認知症支援コーディネーター配置状況)

2018年1月末現在

都道府県	名 称	コーディネーター 種	電 話	備 考
北海道	北海道認知症コールセンター	○	011-204-6006	
青森県	青森県若年性認知症総合支援センター	○	0178-38-1360	
岩手県	岩手県基幹型認知症疾患医療センター (岩手医科大学附属病院)	○	019-652-7411	
宮城県	RBA相談室	○	022-346-7068	(※RBA=RightsBasedApproach: 権利に基づくアプローチ)
秋田県	秋田県若年性認知症支援コーディネーター	○	018-892-3751	
山形県	山形県認知症相談・交流拠点「さくらんぼカフェ」	○	023-687-0387	
福島県	若年性認知症相談窓口	○	024-983-8406	
茨城県	認知症専門医療相談	○	029-853-3645	
栃木県	栃木県若年性認知症に関する相談窓口	○	028-627-1122	毎週土曜日 13:30～16:00のみ開設
群馬県	群馬県若年性認知症支援相談窓口	○	027-266-1748	
埼玉県	認知症電話相談	○	048-667-5553	
千葉県	ちば認知症相談コールセンター	○	043-238-7731	
東京都	東京都若年性認知症総合支援センター	○	03-3713-8205	
	東京都多摩若年性認知症総合支援センター	○	042-843-2198	
神奈川県	横浜市総合保健医療センター診療所 (総合相談室)	○	045-475-0105	
	曽我病院 (福祉医療相談室)	○	0465-42-1630	
新潟県	黒川病院認知症疾患医療センター	○	0254-47-2640	
	総合リハビリテーションセンターみどり病院認知症疾患医療センター	○	025-244-5566	
	白根緑ヶ丘病院認知症疾患医療センター	○	025-372-4107	
	川瀬神経内科クリニック認知症疾患医療センター	○	0256-33-9070	
	三島病院認知症疾患医療センター	○	0258-42-3400	
	南魚沼市民病院認知症疾患医療センター	○	025-772-2604	
	柏崎厚生病院認知症疾患医療センター	○	0257-23-1234	
	高田西城病院認知症疾患医療センター	○	090-7801-7533	
真野みずほ病院認知症疾患医療センター	○	0259-55-1122		
富山県	富山県若年性認知症相談・支援センター	○	076-432-7501	
石川県	石川県認知症疾患医療センター (石川県立高松病院内)	○	076-281-2600	(受付時間) 月～金 8:30～17:15
福井県	福井県若年性認知症相談窓口	○	0776-63-5488	
山梨県	山梨県認知症コールセンター	○	055-222-7711	
長野県	若年性認知症 (認知症) コールセンター	○	0268-23-7830	(受付時間) 月・水・金 13:00～20:00
岐阜県	岐阜県若年性認知症支援センター	○	0584-78-7182	
静岡県	静岡県若年性認知症相談窓口	○	054-252-9881	(受付時間) 月・水・金 9:00～16:00
愛知県	愛知県若年性認知症総合支援センター	○	0562-45-6207	
三重県	三重県若年性認知症支援コーディネーター	○	090-5459-0960	
滋賀県	滋賀県若年性認知症コールセンター	○	090-7347-7853	
京都府	京都府こころのケアセンター 若年性認知症支援チーム (おれんじブリッジ)	○	0774-32-5885	(相談時間) 9:00～12:00 13:00～15:00
大阪府	大阪府認知症コールセンター	○	06-6977-2051	
兵庫県	ひょうご若年性認知症生活支援相談センター	○	078-242-0601	
奈良県	奈良県若年性認知症サポートセンター	○	0742-81-3857	
	家族の会 電話相談	○	0742-41-1026	
和歌山県	わかやま認知症なんでも相談	○	0120-969-487	
鳥取県	鳥取県若年性認知症サポートセンター	○	0859-37-6611	
島根県	しまね若年性認知症相談支援センター	○	0853-25-7033	平成30年4月1日開設
岡山県	おかやま若年性認知症支援センター	○	086-436-7830	(受付時間) 月・水・金 10:00～12:00 13:00～16:00
広島県	広島県若年性認知症サポートルーム	○	082-298-1034	
山口県	若年性認知症支援相談窓口	○	0836-58-2212	
徳島県	徳島県認知症コールセンター	○	088-678-4707	(受付時間) 月～金 10:00～16:00
香川県	香川県若年性認知症支援相談窓口	○	080-4719-5073	
愛媛県	愛媛県若年性認知症支援コーディネーター	○	070-3791-0342	(受付時間) 月～金 10:00～15:00
高知県	高知県若年性認知症相談窓口	○	080-2986-8505	
福岡県	若年性認知症サポートセンター	○	092-574-0196	(受付時間) 火～土 10:00～16:00
佐賀県	若年性認知症支援センター	○	0952-37-8545	
長崎県	長崎大学病院 認知症疾患医療センター	○	095-819-7975	
熊本県	熊本県認知症コールセンター	○	096-355-1755	(受付時間) 月・火・木・金 9:00～18:00
大分県	若年性認知症に関する相談窓口	○	097-552-6897	
宮崎県	若年性認知症コーディネーターによる電話相談窓口	○	0985-22-3803	
鹿児島県	若年性認知症支援相談窓口	○	099-251-4010	
沖縄県	沖縄県若年性認知症支援推進事業	○	098-943-4085	

●最新の窓口一覧は、若年性認知症コールセンター HP に掲載 <http://y-ninchisyotel.net/callcenter/linkbanner.html>

愛知県若年性認知症総合支援センター

認知症介護研究・研修大府センター

認知症介護研究・研修大府センターでは、愛知県の委託を受けて、若年性認知症のご本人やご家族の支援のため、「愛知県若年性認知症総合支援センター」を開設しました（平成28年10月1日）。若年性認知症でお悩みの方はお気軽にご相談ください。

愛知県 若年性認知症 総合支援センター



認知症介護研究・研修大府センターでは、愛知県の委託を受けて、若年性認知症のご本人やご家族の支援のため、「愛知県若年性認知症総合支援センター」を開設しました（平成28年10月1日）。若年性認知症でお悩みの方はお気軽にご相談ください。

若年性認知症総合支援センターとは

若年性認知症のご本人やご家族だけではなく、勤務先の企業や地域包括支援センター、市町村等からの相談に応じ、若年性認知症の特性に配慮した医療・福祉・就労等の総合的な支援を推進する機関です。

相談形態は多様です

電話番号 **0562-45-6207**

開設日時 月～土 10:00～15:00（※祝日・年末年始を除く）

来所相談
（事前予約制）

電話相談

訪問相談
（事前予約制）

社会福祉法人 仁至会 認知症介護研究・研修大府センター
〒474-0047 愛知県大府市半月町三丁目294番地 TEL:0562-44-5551 FAX:0562-44-5831



**社会福祉法人 仁至会
認知症介護研究・研修大府センター**

〒474-0037 愛知県大府市半月町三丁目294番地
TEL 0562-44-5551 FAX 0562-44-5831
<http://www.dcnet.gr.jp/>

